

道が歴史をつくった!?

時は平安末期。国を治めていた平氏と東国に拠点を持つ源氏がしのぎを削った「源平合戦」は、その後の歴史を大きく動かした出来事でした。

静岡県内で繰り広げられた合戦で有名なのが、富士川の戦いです。武田信義率いる武田軍（甲斐源氏）は平維盛率いる平家軍と川を挟んでにらみ合いを続けていました。しかしその夜、水鳥が羽ばたく音に驚いた平家軍が戦わずに逃げ出したことで、武田軍

が勝利をおさめたという逸話は有名です。※諸説あり
ところで、なぜこの戦いが富士川で行われたのでしょうか。二つは東海道を通じて東と西が出合う場所であったということ、そして

もう一つはこの戦いの主役となった武田の本拠地である甲斐（現在の山梨県）から駿河に下る道が、



源平盛衰記 駿河国富士川合戦（歌川国芳） 富士山かぐや姫ミュージアム所蔵
川から水鳥の大群が一斉に飛び立つ様子が描かれています



平家が陣を張ったのは、現在の富士市新橋町のあたり。昔はこのあたりを富士川が流れていました。この地は「平家越」と呼ばれ、今も石碑が残されています

富士川沿いにある富士川沿いにあるたということ。そしてその交わる場所が戦いの舞台……
となりました。道が戦いの場所を決めたといえるでしょう。このように、昔から、道が交わる場所は重要なところでした。今でいえば、山梨と静岡を結ぶ中部横断道と国道1号との関係にも似ています。そう考えると、850年前の出来事も身近に感じる事ができるでしょう。

監修：近江俊秀・文化庁文化財第二課主任文化財調査官、中村羊一郎・静岡産業大総合研究所客員研究員、本郷和人・東京大史料編纂所教授